

近年、「ルッキズム」という語が頻繁に聞かれるようになっている。これは外見に基づく差別を意味し、その差別が結びつく既存の不平等はジェンダー、人種、階級、障害等多岐にわたる包括的な概念である。そのうち、女性の身体の外見の規範やそれを実現するための種々の実践については、フェミニズムにおける議論の蓄積があり、ジェンダー間の権力関係の観点などから考察されるとともに、それに抗する方策も模索されてきた。そこで本講演ではまず、基本文献の紹介も兼ね、そうした議論の経緯をたどる。

一方、この問題は表象の領域においても主題化されてきた。本講演では、とくに1980、90年代以降の英語圏の文学・視覚表象テキストを上述の議論に位置づけながら、そこに示唆される女性美の規範への抵抗の不可能性を検討したい。具体的には、フェイ・ウェルドンの「女悪魔(She-Devil)」シリーズ(1983、2017)や、『ブリジット・ジョーンズの日記』(1996)に代表される「チック・リット」のジャンルに描かれる女性主人公の美容行為を取り上げる。またこの問題と関連して論じられることの多い、いわゆる「ミス・コンテスト」を題材とする2000年代以降の映画4、5点にも言及する予定である。以上を通じ、あらためて表象分野の意義についても考えることになるだろう。

女性の身体の外見を めぐるフェミニズム の議論と文化表象

講演 英 美由紀 氏 藤女子大学教授

12.20 (火) 13:00-14:30

オンライン講演会 (zoom使用)
視聴無料 お申込は12/16(月) 16時まで

下記のQRコードへアクセス
申込みフォームから登録



読み込めない場合は、こちらのリンク先
<https://forms.gle/G9R3qWNQFL62t3nPA>
へアクセスしてください。

主催 奈良女子大学文学部言語文化学科
「ジェンダー言語文化プロジェクト」
共催 奈良女子大学アジア・ジェンダー文化研究センター
お問合せ 奈良女子大学アジア・ジェンダー文化研究センター
高岡 尚子 E-mail: naotakaoka@cc.nara-wu.ac.jp